

# 特集に当って

横山 和夫

最近、建設業ではTQCを導入し、推進している企業が急増している。企業により導入の目的は異なると思うが、経営環境の悪化に対応して企業体質を強化し、競争力を高めることが大きなねらいの1つと考えられる。

TQCは、事実にもとづいて管理する、因果関係をたどりの真の原因を押える、一貫した論理・ストーリーにしたがって考え行動する、システム指向し体系的にアプローチする、などを特徴とした経営管理の手段であり、その実践により企業活動の各部面で、より科学的・合理的な考え方が高められてきており、その中でORの役割はより重要になっている。すなわちTQCの実践はORの活用の中

を拓げ、ORの活用はTQCの内容の充実につながるとも言える。

このような時点で、建設業におけるORの活用の状況をふり返り、その活用の場を考える1つの参考として特集を組むことになった。

特集では、はじめに全般的な状況について解説をしていただき、その次に建設の主なステップである設計と施工の段階における事例をベースとした解説をしていただくという構成になっている。

この他にも、受注、調達の段階や、さらには住宅、海外建設プロジェクトの運営管理などさまざまな分野でのアプローチは行なわれていると思うが、今回は掲載できなかった。別な機会に紹介していただきたいと考えている。

よこやま かずお 鹿島建設㈱

ることである。その意思決定には、住宅市場の動向や、ユーザーニーズに関する情報の分析が大きく寄与している。

事業性は、販売成績を代表的な目的関数として考えることができるために、集合住宅計画の計画技術の中ではOR的な取組みがしやすい問題といえよう。その他の分野では、評価のアルゴリズムをモデル化することが容易でなく、解決すべき課題は多い。なお今後、可能性のある分野としては、販売戸数や販売面積、単価の最適化の問題などが考えられる。

しかし、集合住宅計画の分野に、数理的な考え方が導入され始めたのはごく最近であり、今後の発展の余地は大きい。

## 参 考 文 献

[1] 駒沢 勉, 他: 行動計量学のための統計解析用

プログラムパッケージの開発. 文部省統計数理研究所, 昭和51年

[2] 安藤武彦, 生部圭助, 宇治川正人: マンション企画品質評価システムの開発. 品質管理, 第33巻, 11月臨時増刊号, pp. 317~320

[3] 鳥巢元太: 企画段階の設計作業を支援するCADシステム. 季刊カラム, No. 77, pp. 67~72

[4] 島田正樹, 他: 企画設計システムの開発と利用. 日本建築学会第1回電子計算機利用シンポジウム論文集, 1979年3月, pp. 379~384

[5] 新井 進, 遠藤泰夫: 基本設計段階におけるCAD. 日本建築学会第4回電子計算機利用シンポジウム論文集, 1982年3月, pp. 289~294

[6] 建築のCAD—実用化へ曙光. 日経アーキテクチュア, 1982年6月21日号, pp. 53~103